

---

# 昨日のガキは今日の俺

山本 かぼちゃ丸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昨日のガキは今日の俺

### 【Nコード】

N4236P

### 【作者名】

山本 かぼちゃ丸

### 【あらすじ】

毎日毎日、人間生きてると色んな事ありますよね。

泣いたり笑ったり怒ったり喜んだり怨んだり驚いたり惚けたり。

「人間は不公平だ」「何で皆が幸せになれないんだろう」なんて昨日まで真剣に考えていたかぼちゃ丸です。でも今日は違います。「人間は不公平だ、でもそれが人間だ」「何で皆が幸せになれないんだろう、それは人間はそれぞれに個性があって、当然意見の食い違いが生じるから」と言う風に解釈しました。これだけ見ると、人間の生き方を皮肉ってるように見えますが、それは違つと否定して

おきましよう。なぜならこの小説は私が毎日のように考える「人間」について気ままに語って行くエッセイなのですから。でなきゃ自分が「皮肉」と思ってる事をわざわざ自分のエピソードの「環」として書かないでしょ？私は思った事をそのまま気楽に書きます。だからあなたも気楽に読んで、自分の長所と短所を改めて考えてみて下さい！ 私は仏教信者です。予め言うておきます。

## 第一訓：人間は考える

「人間は考える葦である。」ーブレイズ・パスカルの言葉ですね。正直、私は今でもこの言葉の意味が全くと言っていいほど理解できません。

自分が小学生のときには、勝手に「足」だと思っていました。

だから「んー？何となく分かる気がする。」と本当に勝手な解釈で満足していました。

多分、人間は「動く」＝原動力は「足」で、脳ミソがついているから「考える」という結びつきだったんでしょね。

いま考えてみても「葦」というのはたしか植物で、ナイル川近辺に生えてるんじゃないかな？という曖昧な結論で終わってしまいます。

ここでは正しい意味はさておき、

これにもとづいて人間は「何故考えるのか？」という点を今回は述べて行く事にしましょう。

まあ「正しい意味」というのも、人によって異なってくるのですがね。

人間が考えるきっかけ、というより、人間の脳ミソが飛躍的に高まったきっかけというのを

皆さんはご存知でしょうか。多分学校の授業でやったと思いますが。

それは「二足歩行」です。っていうかだっただと思います。定かではありません、私の中で。

猿と人間の大きな違いは、「二本足で立って歩くか」という事ではないでしょうか。

ということは、猿がトコトコ歩いたら、もうそれは立派な人間と言

う事になります。

しかし、残念ながら今のは当たるとも間違っているとさえも言えないものです。

猿と人間のもう一つの大きな違いは「自分の意志で考えて行動できるか」でしょう。

猿の行動はあくまで「本能」です。「意志」ではありません。

さて、話を戻してみましよう。

とりあえず、今ので人間の「考える起源」が見えたと思います。

次は「何故考えるようになったのか？」ということなのです。

「何故考えるようになったのか？」

はい、皆さんいろんな意見があると思います。

すこし考えて、答えが出たら下に進みましょう。

出ましたでしょうか。

あくまで個人の意見ですが、

「周りの危険から身を守るため」というのが私の意見です。

「考えて行動」できなければ様々な事態に素早く対応する事ができませんので。

これはあくまで「昔」。

ではいよいよ最後に「現在」の「何故考えるのか？」に触れて行きましょう。

状況は違いますが、今でも考える事は、自分の身を守る事に役に立ちます。

ここからは推測ですが、

そういう風に「経験」から「行動」の間に「思考」が入り、

それが自然になっていったため、さらにいろいろな方向にも考えるようになれた、

というものではないでしょうか。まるで木々の枝が様々な方向に分かれるように。

これが人間は「何故考えるのか？」の答えに最も近い結論です。

結局大きな目で見れば現在も昔も、「考える」ことの意味、必要性は変わらないわけです。

当然現在は進化して「自分の身を守る」から「相手を傷つける」ことにも使えるようになってしまいました。

でもそれもまた、「人間」の意味であり、価値であり、宝なのでしよう。

だって、人を傷つけない人なんていないのですから。

こうしてさらに進化して「相手の身を守る」ことがごく当たり前であるような「人間」が生まれるのを見てみたいですね。何百何千何億年後、人が生きていなくとも。

「考える『足』がもたらす結果」を。

## 第二訓：頂点の存在

「平和」を知らねエ子供共と”戦争”を知らねエ子供共の価値観は違う！！！」

「頂点に立つ者が善悪を塗り替える！！！！」

「正義は勝つって！？そりゃあそうたる 勝者だけが正義だ！！！！」

これらの台詞がなんの物か、分かる方もいると思います。

今（2010年12月現在）、集英社の「週刊少年ジャンプ」で連載中、

尾田栄一郎作、「ONE PIECE」の556話で登場した台詞です。

7

話の内容、その他はとりあえず置いておきましょう。

尾田先生は私も大好きですし、尊敬していますが、今から話す内容に直接的に関係しないので。

さて、これらの台詞は正直ウンウンと納得させられる台詞です。

少なくとも私はそうさせられました。

まったくその通りだと思います。

現在内戦中の国々はなんと5カ国以上もあり、その犠牲者のほとんどが貧しい民です。

そして、それが「普通」になってしまっている…。

ご飯粒一粒でも取り合って食べる時代が、日本にもあったそうです。今から約70年前、「第二次世界大戦」中の日本です。

とくに後期の「太平洋戦争末期」で、広島、長崎に原子爆弾が落とされたことで、

この二つの都市は戦争の惨禍を二度と忘れてはならない平和の代表的存在となっています。

それが今はどうでしょう。

今の子供たちは、口先だけ「戦争はいけない」「戦争最中はとてもみんな苦しかった」と、言っているだけで本当に苦しかった事を分かっていません。

学校では給食を残し、その割りにやたら好きな物ばかりを食べ、「豊」に甘えすぎています。

できることならこの残したもつたいない給食を内戦中の国々に送ってやりたい。

と思った先生や親御さんも多いと思います。まったくもってその通りです。

「人よっての価値観の相違」、というものはどうしても変えられない物です。

人に「ゴミ」と思われる物が本人には「宝物」であったり。

しかし、「飲食」「清潔」「排便」の三つの基本的生活習慣の「価値観」は統一すべきです。

「飲食」は価値観というより好き嫌いですが、そういうことを甘や

かすから子供は

「ああ、嫌いな事はやらないでいいんだ」という間違った解釈を脳裏に残してしまうのです。

「清潔」は当然です。相手に不快感を与えるのですから。

また「排便」も同じ。犬じゃあるまいし、いくら我慢ができないからといって

そこら辺でやるというのはとても良いとは言えません。

次に「頂点」について考えてみましょう。

今、日本の経済やその他の問題についても国民のリーダーである政治家が

悪いと一方的に投げつけられています。

まあ「政治家は全然悪くない」というと嘘になりますが、

こういう一方的な国民の意見は正直「やりすぎかな」と思います。

なぜならそのリーダーを最終的に選んだのは自分たちなのですから。

「俺は違うヤツに投票した。だからこいつが当選しとけば良かったんだ」という人も

いるとは思いますが、そこは「日本のルールの中の選抜方法の多くが多数決」という所を

深く理解していただけるとありがたいです。多くはルールの中にルールが存在します。

とりあえず、「頂点」である政治家の汚職、天下りなどですが、こういう事がある以上、日本もいつ内戦になってもおかしくありません。

なぜか。理由は2つあります。

1つめは、今内戦している国の多くは、その国のリーダーがちゃんとしていないから

戦争に発展したというものがとても多い事です。

つまり、リーダーがちゃんとしてれば戦争などのいざこざ、争いはなくなるわけです。

しかし日本はリーダーがちゃんとしてると言えますか。

2つめは「世代交代」です。

戦争を体験した年代が、この世を去る時代になってきました。

戦争体験者がゼロになってしまえば、本当の恐怖を語る物は無くなり、

平和主義、戦争放棄の鎖は最悪ちぎれてしまいかもしれません。

それでは最後に「勝者が正義」についてです。

これも領けないようではないでしょうか。

正義が負けるのはあくまで前座、後半で必ず巻き返します。

そして、これらもあくまで物語の中での話であるということ。

「頂点に立つ者」、そしてその責任問題。

これらをよく考えて、本当に日本を救い、そして世界中をも救ってくれる。

そんなリーダーが現れることを願いましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4236p/>

---

昨日のガキは今日の俺

2010年12月18日17時34分発行